

主要科目の特長

こども学科

授業科目名	特 長
こどもと音楽(ピアノ I)	柔軟な感性を持ち合わせている幼児期の子どもは、音楽を通した様々な表現活動を通してさらに豊かな情緒を育んでいく。子どもとの音楽表現活動において、保育者が身につけておかなければならない保育技術の一つがピアノ技術である。この講義を通して、ピアノ演奏のための基礎的技術・楽典の知識を身に着けると共に様々な音楽表現を学ぶことが出来る。さらに保育現場で毎日歌う生活の歌や童謡などの弾き歌いの基礎技術を習得することが出来る。実技指導の際に、各々のレベルに応じて課された課題曲に取り組み、規定曲数を終えなければ実技試験を受ける事が出来ない。日々の練習を習慣化し、意欲的に取り組むことで実践に役立つピアノ技術を身につけることに繋がる。学生は約3名の進度別グループに分かれ、45分間はピアノ実技指導を受け、45分間は楽典の知識を学ぶクラス授業に出席し1コマ分とする。実技と知識がリンクするように双方の授業で演奏のフィードバックを行い学習を深めていく。
こどもと音楽(器楽)	この授業ではこどもが音楽と関わることによって感性や表現を広げていくことを目的に、その方法を理論と実践から学ぶ。リズム遊び、楽器遊び、また、打楽器の基本的奏法と発達を考慮した扱い、応用を考え実践し子どもと音楽の理解を深める。音楽あそびの指導案を作成し模擬保育を実践することにより、子どもの発達を踏まえた表現を学び、表現の受容を含めた自らの音楽的表現能力を養う。授業は演習で行うが、随時グループワークを行い、実践に繋げる。フィードバックは授業のなかで講評や解説の時間を設ける。
保育内容総論	この授業では、これまでに学んできた各領域に関する知識や実践で得た内容を振り返りながら、総合的に保育を捉えて学んでいく。また、現場に出て子どもの姿を捉えながら的確な援助ができるようになるため、思考力や協調性、議論する力等の実践力を高める。講義を中心としつつ、ケース・スタディやディベートを行って意見を深め合う。小テストを実施し解説する。リアクションペーパーを記入してフィードバックを共有する。
保育者論	保育者に求められている資質や期待される役割を理解し、さらに保育者としての専門性を考察し、子どもや保護者、地域社会にとってどのような存在であるかを、保育現場の実態から学ぶ。授業は講義形態で行うが、必要

	<p>に応じて視聴覚教材を取り入れ、ディスカッション、グループワーク等によりレポートを作成する。前回の授業のフィードバックを毎回行う。</p>
<p>幼児理解と教育相談</p>	<p>この授業は、教育相談の基礎知識の習得を目的とし、子どもと自分への理解を深め、現在の幼児教育現場が抱える諸問題を解決するため技法を身に付ける。授業は講義を中心とするが、ロールプレイングや対人スキルズ・トレーニング、グループワークなどにより、子どもとかわる心や身体の動き、他者の気持ちを想像することを体験する。演習では、授業時に示す課題について考え、レポートを作成、提出を求め、次回授業においてフィードバックをおこなう。</p>
<p>保育・教職実践演習(幼稚園)</p>	<p>これまでに習得した知識や技術が幼児教育・保育の専門職として十分なものであるか、保育観・子ども観がしっかりと構築されているかを検討し、教職・保育職を目指す者としての自己課題を認識する。それを踏まえて、保育指導案による模擬保育、ロールプレイ、現職者との交流、事例研究、PP作成・編集といった多様な課題に挑戦し、保育者としての資質向上を図る。課題内容により、講義、実技、グループワーク、観察など多様な方法を用いる。また、専任教員全員が専門性を活かし様々な形で授業に関わるとともに、現職者など学外の専門家も交えて、授業を展開する。</p>
<p>教育実習研究</p>	<p>教育実習を行うために必要な基本的知識・技術の習得を目的とした事前指導を学ぶ。その中で、保育の記録や指導計画の立案、評価、改善する力を身につける。また、各実習終了後の事後指導では総括的な自己評価を行い、保育者としての実践力の習得を確実にする。1年次6月には、短大近郊の3幼稚園で実習体験学習を行い、子どもと触れ合う中で幼稚園への理解を深める。2年間を通し子どもの実態や教諭の役割について知り、様々な方法で主体的に学ぶ力を養う。</p>
<p>保育原理</p>	<p>保育の意義について考え、保育の内容・方法等を含む保育の速本や保育活動を支える原理について学ぶ。また、保育の歴史について知り、保育の現在とこれからの姿を探求する。授業の冒頭において、前回の内容に言及し学習の流れを把握できるように図り、実施したレポート・ミニテストについてフィードバックを行う。保育実践例を盛り込み、保育の理論と実践が結びつくよう図るとともに、演習やグループワークを行い、講義一辺倒に陥らないようにする。</p>
<p>こども家庭支援の心理学</p>	<p>児童の権利に関する条約、貧困家庭や外国籍の子どもとその家庭への対応など、子ども家庭福祉意義や歴史的変遷、制度、政策、今日的課題について概説し、下記の事</p>

	<p>項の理解を目的として行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭福祉の理念や歴史を理解する。 2. 子ども家庭福祉の制度を理解する。 3. 子ども家庭福祉領域における、保育者としての職務・役割を理解する。教授方法としては、講義を中心に進めていくが、必要に応じ視聴覚教材や討議、個人ワークを取り入れながら授業を展開していく。毎回授業確認シートを記載してもらい、次回授業でフィードバックを行う。
乳児保育 I	<p>3歳未満児（0，1，2歳児）の子どもたちは、初めてこの世界に出会い、食べ、歩き、話すようになる。この授業ではたった3年の間にあまりに大きな変化を経験する乳児の発達と乳児保育の役割について理解する。実際の事例を多く取り入れ、具体的な遊びや援助の仕方を身に付ける。授業方法は、講義を行い必要に応じて適宜視覚教材や演習も取り入れる。またグループ・ワークを行って意見を深めあう。毎回小テストを実施し解説する。リアクションペーパーを記入し、フィードバックを共有する。</p>
保育教材研究 I	<p>この授業では、教育・保育の場面で行われているエプロンシアターやパネルシアターを自ら製作し、子どもの興味や保育者の配慮等を考える。さらに現場で活用するための知識や技術を身に付ける。授業形態は、個人による製作と演習形式を中心とする。展開実習については、講評・解説等フィードバックを行う。</p>
保育実習研究 I	<p>実習の意義や目的、実習の方法内容、実習に際しての留意事項等、実習について総合的に学ぶとともに、実習における観察法や記録の取り方について理解する。実習後には自己評価やグループワーク等によりフィードバックを行い、各自の実習課題を明確にする。</p>